

2009年10月14日

北海道開発局長 関 克己 様
室蘭開発建設部長 上西 隆広 様

(社)北海道自然保護協会 会長 佐藤謙
十勝自然保護協会 会長 安藤御史
富川北一丁目沙流川被害者の会 代表 中村正晴
平取ダム建設問題協議会 会長 松井和男
苫小牧の自然を守る会 代表 館崎やよい
イテキ・ウエンダム・シサムの会 代表 佐々木義治
自然林再生ネットワーク 代表 前田菜穂子
ザ・フォレストレンジャーズ 代表 市川守弘
平取ダム建設で失われる自然を守る会 代表 中村智子
大雪と石狩の自然を守る会 代表 寺島一男

平取ダム堤体下流工事用道路工事建設入札に反省をうながし、
住民参加の徹底論議を求める
－10月7日開発局記者会見に対する見解－

私たちは、10月5日に、平取ダム本体工事のための道路建設入札を知り、ただちに国土交通大臣、北海道開発局長および室蘭開発建設部長に宛てて、「国土交通大臣が凍結・見直しを行うとしている対象となっている平取ダムの堤体建設に必要な工事用道路建設を入札することは、大臣の方針と違うことでもあります。したがって、10月7日に予定されている入札は中止すべきです」との申し入れをしました。これに対して、6日午前、室蘭開発建設部は「肅々と工事を進める」として、7日に入札結果の開示（開札）を行う旨の回答をしました。その回答を受けた私たちは6日午後、室蘭開発建設部へ抗議に出向きました。その時点での回答から一転して7日午前、「開札は延期となり、開発局がそれについて記者会見を行う」との連絡がありました。7日記者会見で発表された内容を、マスコミが伝えた情報から整理すると、以下の4点にまとめられます。

- 1) 入札は10月1日と2日に行われた。
- 2) 本省からの指示によりその開札を延期した。
- 3) 工事は、ダム用地の河川に設置されている橋の維持管理や災害調査に使う工事用の道路建設で、道路は長さ約600m、幅3m。
- 4) 室蘭開発建設部は、ダム本体の工事ではなく、維持管理や調査目的のために使用する道路なので、問題ないと考えて入札を行った。

私たちは、以上の開発局の入札と記者会見の内容には看過できない問題を含んでいると考えて、次の二点を強く要望します。

1. 平取ダム堤体下流工事用道路工事建設入札問題に見られた国民の声に耳を傾けない姿勢を、住民本意に切り替えることを要望します。
2. 平取ダムの凍結に伴い、今後の見直しにあたっては、住民等の考えが反映されるよう行うことを要望します。

以下に、抗議と要望の理由に関する私たちの考えを示します。

1. 前原大臣のダムに関する方針の北海道開発局および室蘭開発建設部の理解度

9月18日、前原国土交通大臣が、平取ダムを含む道内9ダムの見直しを表明しました。今回の入札が行われたのはそれから13日後です。この道路は、「維持管理や調査目的のために使用する道路」ではなく、まさにダム堤体建設のための道路です。入札公告には「工事名：沙流川総合開発事業の内平取ダム堤体下流工事用道路工事、工事内容：本工事は、平取ダム堤体建設に必要となるダム下流工事用道路の施工を行うものである。」と記載されています。本省の指示を仰ぐこともなく、本体工事のための道路建設の入札を行ったこと、室蘭開発建設部の「本体工事ではないので問題ないと考えて入札を行った」との説明が入札公告の記載と食い違っていることは、本省のみならず多くの国民に対する背任行為と言えます。10月9日には、前原大臣は平取ダムの凍結を明らかにしました。今回の開発局と室蘭開発建設部の対応が誤っていたことが道民に曇りなく明らかになりました。今後北海道開発局・室蘭開発建設部ともそのような行為は改め、多くの国民の選択によって生まれた新政権の「ダム見直しの方針」を理解し、それを実践するよう強く抗議・要求します。

2. 計画された道路の問題点

昨年度より平取ダムに係わる付替道路の工事は進められていますが、従来の生活道路を改良するという意味もあることからさしたる反対の声は聞かれません。しかし、今回の入札が行われた道路については、生活道路としての役割はなく、多くの問題を含むことから私たちはその建設について抗議します。この道路は、額平川のダム堤体建設が予定されているすぐ下流に向けて建設が予定されています。この道路の問題には、本体工事と直結していることに加えて、希少植物オクエゾサイシンが生育し、熊の通年の通過場所であるなど動植物の貴重な生息地を奪うこと、アイヌの聖地チノミシリ周辺の景観やアイヌ文化に関わる貴重な動植物が存在する重要な環境（アイヌ文化環境保全対策調査報告書に記載）を破壊することがあります。貴重な自然環境や文化的景観を守るためにも、私たちはこの問題の多い道路建設に引き続き反対します。

3. 北海道開発局長は、政権交代に示された国民の声を開発行政に反映すべきです。

10月8日の新聞は、「開発局は、今回の平取ダム関連道路入札は本省の指示で延期したが、現時点でダム工事に関する入札などの手続きを続行する意向を表明した」と報道した。開発局は、本省からの指示がないダム工事は進めるという意志表明をおこないました。政権が変わり、政策も変化したのに、古い政権のままの行政を行おうという開発局は、国民の声に耳を

ふさぎ、政権を失った前政権の二の舞を行おうとしています。私たちは、これでは開発局不要論が出てくるのは当然ではないかと考えます。

すでに述べたように、前原大臣は、開発局がダム工事を強行すると述べた1日後に、平取ダムの凍結を明らかにしました。ダム建設について、一度立ち止まって国民目線で見直すというのが前原大臣の考えです。そのような大臣の考えに従って行政を進めるのが公務員の任務だと私たちは考えます。今までと同じように、ダム事業ありきの行政を行うようでは、道民の期待を失い、開発局の存在そのものが疑われうことは必至ではないかと私たちは考えます。あらためて、住民等の意見を重視する姿勢に転換することを要望します。

4. 平取ダム建設を凍結して、流域住民の治水や利水、河川環境の保全、税金の使い方などの視点から、住民の活発な論議が実現する場を作り出すことが肝要です。

私たちは、前原大臣が凍結・見直し方針をあげた理由のひとつとして、上述したような開発局の官僚主義で民意を無視する姿勢があると考えています。民主党がマニフェストで掲げた「脱官僚依存」が国民に支持されたゆえんでもあります。

二風谷ダムができてから水害が多くなったことは事実であり、二風谷ダムの急激な堆砂は、下流住民にとってさらに洪水の危険を増すものとして脅威です。二風谷ダムの洪水調節機能の低下を解消するためにと計画された平取ダムについて、開発局は、「平取ダムに排砂ゲートをつけたので、平取ダムに堆砂は起きない」と説明しています。しかし、平取ダムの排砂ゲートは排砂が実施されている黒部出平ダムと同じものなのか疑問があります。開発局の述べるように、排砂に成功したとすると、排出された土砂は二風谷ダムを埋めることとなり、平取ダムの排砂が成功しなければ、平取ダムは二風谷ダムと同様土砂で埋まることとなります。また、平取ダムは支流のうちの1つである額平川に予定されているため、治水効果も限定的です。ダム建設は、膨大な予算を必要とする上に魚が川を行き来できなくなる環境破壊に加えて、ダム下流の生息環境悪化を引き起こすので、その建設には慎重にも慎重でなければなりません。二風谷ダムの堆砂は、開発局は想定外と説明していますが、それで済みますのは行政としては失格です。二風谷ダムの失敗は、十分な審議を行わなかった結果であり、税金を使う公共事業は、納税者本意の話し合いで行わなければならないことを示した例だと、私たちは考えています。

前原大臣は平取ダムの凍結を明らかにしました。新しい政権のもとで、無駄を排し、長い目で見て何を残すべきか、何を造るべきか、まずは一般国民が意見を出し合い議論する場が必要です。その中で私たちは子孫に豊かな自然を残すためにも、ダムによらない治水こそ、人と川とが共存していく道だと考えて、意見を述べていく所存です。